

答辞

大切なもの。

仲間。

先生。

家族。

たくさんの思い出。

それがわたしの大切なもの。

通学路の桜の蕾も大きく膨らみ、春の香りが漂いはじめました。

たくさんの人たちに見守られ、

私たち二〇九名は、

今日、卒業の日を迎えます。

少し大きな制服に身をつつんで迎えた入学式。

不安と緊張、

それ以上に、
大きな期待を胸いっぱい抱え、
私たちの中学校生活が幕を開けました。

一年生。

仲間との団結を深めたオリエンテーション合宿。
力を合わせてゴールを目指したハイキング。
必死に歌詞を覚えて臨んだ校歌コンクール。

仲間と声をかけあい、深まった絆。

私たち赤学年のテーマである、
心のふるさとのいしずえが
少しずつ築かれていきました。

二年生。

原爆の恐ろしさを学んだ広島研修。
罪のない命が無差別に奪われる、
そのことがどれだけ残酷かを思い知らされました。
もう二度と同じことを繰り返してはいけない、

今ある平和を守るためには、

それを願う

一人一人の思いをつないでいかなければならない。

折り鶴に願いを込めて、

心から平和を願いました。

そして三年生。

三年間続けた部活動。

苦しいときも、

辛いときも、

うれしいときも、

いつも側にいてくれた仲間と先生。

先生がかけてくださった言葉一つ一つが

私たちの心を動かしました。

最後のコンクール。

十二分間、二曲の演奏。

一つ一つの音に、全員の心が重なりました。

「この瞬間のために、一緒に努力してきたんだ。」
と、胸がいっぱいになりました。

自らの手でつくりあげた最後の学校祭。

自分たちがリーダーとなり、

200人以上ものブロックを動かしました。

ブロック練習では、初めての経験に、

思うように指示が出せず、

焦り、迷い、悩む日々もありました。

それでも、毎日毎日、

完全優勝という目標に向かって、

もがきながらも、

ブロックの先頭に立ち続けました。

迎えた学校祭当日。

心ひとつに熱い思いを届けた合唱。

指先まで魂を込めた渾身のパフォーマンス。

細部までこだわったブロック旗。

全力で戦った競技。

互いの熱い思いは、

互いの心をうち、

ブロックをこえる声援となりました。

勝つこと、だけじゃない。

結果よりも、

一人一人の思い、

努力を重ねた時間が

一緒に過ごした時間が

何よりも大切な宝物となりました。

卒業に向けて、

様々なことが最後を迎えました。

最後の給食、

最後の掃除、

最後の授業、

そして迎えた今日、卒業の日。

私たちの心のふるさとはいつも
温かく応援してください

先生、そして家族がいました。

ありがとう、先生。

一人ひとりの気持ちに真剣に向き合い、
いつもすぐそばで応援してくださいました。

そんな優しく、時には厳しい先生方のおかげで、
大きく成長することができました。

弥富中学校での「心のふるさと」は、
私達の心の中に、しっかりと築かれました。

そして、

誰よりも私たちを支えてくれた家族のみんなへ。
愛情いっぱい育ててくれて、ありがとう。

友人関係、成績、進路、
時に思うようにならない私たちは、

最も身近である家族に

向けられることがありました。

でも、そんな私の気持ちを
いつも受け止めてくれていました。

毎日の変わりない会話、笑顔、

そして温かいご飯。

その一つ一つに感じられた優しさに、

どんなに救われてきたことか。

本当にありがとう。

在校生のみなさん。

今日まで私たちについてきてくれて

ありがとう。

「先輩」と言っ

頼りにしてくれてありがとう。

私たちが受け継いできた弥富中学校の伝統を、

今度はみなさんの手で繋いでいってください。

ご来賓の皆様。

本日はお忙しい中、

ご臨席をたまわり、ありがとうございます。
私たちはこれからも支えてくれる全ての人に、
感謝の気持ちを忘れず、成長していきます。

そして、何よりも、三年生のみんなへ。

辛いときは励まし合い、

うれしいときは分かち合い、

共に成長してきた特別な二〇九人の仲間。

みんなと過ごした毎日も、

もう今日で終わりを迎えます。

時は満ちました。

風は東風、天気は快晴。

寂しい気持ちをぐっところえて、

明日からは、

弥富中学校でのかけがえのない思い出を、

心のふるさととして、

一歩一歩前を向いて歩いて行きます。

出逢い、支えてくれた全ての人へ。
心からありがとう。

平成三十年三月六日

第六十回 卒業生代表

水谷 都子